

与野南小だより

1月号 令和6年1月9日発行 第9号



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計332名

電話 831-0157



学校ホームページ

好循環を生み出す協働力と思いやりの心

校長 土屋 智樹

新年明けましておめでとうございます。保護者、地域の皆様におかれましては、旧年中、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年1月1日16時10分頃、石川県能登地方を震源とする地震が発生しました。また、地震の翌日2日には、羽田空港で、日本航空機と海上保安庁機の衝突事故が発生しました。新年早々、このような痛ましい出来事が次々とニュースで報じられ、私は言葉を失うとともに悲しみに暮れました。能登半島地震により犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に対してお見舞い申し上げます。被災された皆様の安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

多くの人々によって懸命な救出活動とインフラの復旧作業が行われているとの報道がある中、この地震の影響を受けた高校サッカー石川県代表の星稜高校への熱い応援が話題となっています。報道によると、1日、地元の応援団が来られないため、星稜高校OBがSNSで応援の協力を呼び掛けたことを受けて、他校からの友情応援が実現したとのことでした。2日の試合会場に駆けつけたのは、日大藤沢高校、岡山学芸館高校、名古屋高校の選手やその関係者だったそうです。この日、日大藤沢の選手達が着用した黄色のシャツは、星稜のユニフォームに見立てて茅ヶ崎市指定の黄色のゴミ袋を加工したものだそうです。黄色のシャツには、「共に闘おう」や「星稜」の文字が入っています。また、星稜の対戦相手の市立船橋高校の選手たちは試合前、「力をあわせて乗り越えよう」というメッセージを掲げたそうです。星稜高校の選手たちは、友情応援に応えようと必死で戦いました。試合には敗れたものの、試合終了のホイッスルが鳴るまで全力でプレーしました。私は、能登半島地震に心を痛めた高校生達が、生徒主導で行動を起こしたことに心を打たれました。黄色のユニフォームやメッセージを手作りで行うなど、様々な人々の思いやりの心によって始まった今回の友情応援は、人々の連携や協働することの素晴らしさを私たちに教えてくれました。

さて、今後、AIやロボットなど高度なデジタル化が加速的に進化していくといわれています。これからの時代を生きていく子ども達にはどんな力が求められるのでしょうか。まず挙げられるのは「想像力」でしょう。しかし、私はそれと同等に大切だと思う力は、「協働力」「思いやりの心」だと考えます。より複雑化した課題に対して、異なる個性を持った人達が、それぞれの持てる力を出し合い、協力しながらよりよく解決していくことが強く求められていくと確信しています。本校の学校教育目標は、「笑顔輝く 楽しい学校 ～㊦から学び ㊧かまと学び ㊨んなで伸びる～」ですが、4月の学校だよりでは、「子どもたちが友達や先生など仲間と一緒に学び、みんなで一緒に良いところを伸ばしていける、そのような与野南小学校を子どもたちと共に創っていきたい」と書かせていただきました。仲間と一緒に学ぶことを通して、協働力や思いやりの心を育てるとともに、高校サッカーの高校生のように良いと思ったことを行動に移すことのできるような子ども達の自発性も同時に大切にしていきたいと考えております。保護者、地域の皆様、本年も本校の教育活動への御支援と御協力をよろしくお願いいたします。